

こんにちは。文化財課の児玉です。

今回は、ユネスコの「無形文化遺産」事業について紹介したいと思います。

無形文化遺産は、口承による伝統及び表現、芸能、社会的慣習・儀式及び祭礼行事、自然及び万物に関する知識及び慣習、伝統工芸技術を対象とし、それらの保護を目的として2003年のユネスコ総会において採択された「無形文化遺産の保護に関する条約」（無形文化遺産保護条約）に基づく各一覧表に登録された遺産のことです。

無形文化遺産の一覧表には、

- ・人類の無形文化遺産の代表的な一覧表（代表一覧表）
- ・緊急に保護する必要がある無形文化遺産の一覧表（危機一覧表）
- ・グッド・プラクティス

の3種類があり、候補遺産について、前二者は各国が推薦しますが、条約の精神に則った無形文化遺産保護の最良の事例として登録される「グッド・プラクティス」のみ、ユネスコの無形文化遺産委員会が選定します。

無形文化遺産の数については、2020年4月末時点で代表リスト463遺産、危機リスト64遺産、グッド・プラクティス22遺産の合計549遺産となっており、例えば、朝鮮民主主義人民共和国におけるアリラン民謡（北朝鮮）、ワヤン人形劇（インドネシア）、馬頭琴の伝統音楽（モンゴル）、フラメンコ（スペイン）、宗廟祭礼と宗廟祭礼楽（韓国）、オルーロのカーニバル（ボリビア）、ボラドーレスの儀式（メキシコ）、カラワヤ族のアンデス的世界観（ボリビア）、中国伝統医学の鍼灸術（中国）、東ダンケルクにおける馬上からのエビ釣り（ベルギー）、ボツワナ・カトレン地区の土器制作技術（ボツワナ）など様々です。

また、食に関する無形文化遺産も多く、著名なものとしては、地中海の食事（イタリア・キプロス・ギリシアほか）、フランスの美食術（フランス）、伝統的なメキシコ料理、（メキシコ）、古代ジョージアの伝統的ワイン製法クヴェヴリ（ジョージア）、トルコ・コーヒーの文化と伝統（トルコ）、韓国のキムチ製造と分かち合い文化（韓国）、寛容の象徴アラビア・コーヒー（アラブ首長国連邦・オマーンほか）、ベルギーのビール文化（ベルギー）などがあり、日本からは、和食：日本人の伝統的な食文化（日本）—正月を例として—が登録されています。

「無形文化遺産」は、「世界遺産」の一部として誤解されることも多いのですが、世界遺産は、建物・遺跡等の有形文化財や天然記念物といった不動産に限定しており、無形の文化財等は含まれていません。また、世界遺産は、顕著な普遍的価値を証明するための詳しい説明が必要となりますが、無形文化遺産の場合、認知の高まりと多様性の尊重を目的としていることから、そのような基準はなく、書類審査のみで現地調査は行われません。価値の証明を問わないのは、無形文化遺産が生活に深く根ざしたものであり、それらを比較して価値の大小を語ることに意味がないと考えられているようです。

このように、ユネスコの無形文化遺産は、世界遺産とは価値に対する考え方、登録のための手続等において世界遺産と全く異なっているのです。

次回は、日本の無形文化遺産について、紹介したいと思います。